

# 北九州市立八幡病院 公的医療機関等2025プラン

平成29年	9月	策定
平成30年	11月	改訂
令和元年	7月	改訂
令和2年	4月	改訂

【北九州市立八幡病院の基本情報】

医療機関名 : 北九州市立八幡病院

開設主体 : 北九州市

所在地 : 北九州市八幡東区西本町4丁目18番1号

許可病床数 : 439床

(病床の種別) 一般

(病床機能別) 高度急性期53床、急性期386床

稼働病床数 : 313床

(病床の種別) 一般

(病床機能別) 高度急性期34床、急性期279床

診療科目 : 内科、循環器内科、小児科、外科、消化器外科、呼吸器外科、  
脳神経外科、整形外科、形成外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、  
眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、救急科、麻酔科、精神科、歯科

職員数 :

- ・ 医師 81人
- ・ 看護職員 325人
- ・ 専門職 91人
- ・ 事務職員 44人

## 【１．現状と課題】

### ① 構想区域の現状

- ・ 総人口はすでに減少局面に入っており、６５歳以上人口は平成３２（２０２０）年がピーク、７５歳以上人口は平成４２年（２０３０）年がピークと予想されている。
- ・ 人口１０万人対の一般・療養病床の数、及び医師の数は全国平均を上回り、医療資源は豊富である。
- ・ 自己完結率は救急で９７．５％、くも膜下出血で９７．５％、急性心筋梗塞１００％、悪性腫瘍９６．５％、小児の入院体制で９７．８％と非常に高く、医療提供体制は全般的に充実した状況であり、周辺区域からも患者が流入している状況である。
- ・ 必要病床数の推計値と現状の病床数との比較では回復期が２，４１１床不足する見込みである。
- ・ 高度医療機関が集積し、高度急性期、急性期について広域的に医療提供を支える役割を果たしつつ、高齢化の進展に伴い増加する慢性期・在宅医療等の医療需要に適切に対応することが必要である。

### ② 構想区域の課題

- ・ 不足する回復期病床については、医療機関の自主的な取組を基本としつつ、急性期又は慢性期病床からの機能転換により確保を図っていく（地域医療介護総合確保基金による支援を実施）。
- ・ 北九州区域の実情に応じた在宅医療等の提供体制の構築を進める（事業の実施に基金を活用）。
- ・ 救急医療、小児・周産期医療、５疾病にかかる医療提供体制については充実しており、引き続き、提供体制の維持を図るとともに、医療機関間の連携の強化など質の向上に努めていく。
- ・ 今後増加が見込まれる認知症高齢者について、関係者、関係機関の連携等適切に対応していく。

### ③ 自施設の現状

- ・ 自施設の理念、基本方針等
  - (基本理念) 私たちは、24時間質の高い医療を提供し、皆様に、安心、信頼、満足していただける病院をめざします。
  - (基本方針)
    1. 医療の安全に万全を期し、科学的根拠に基づく、質の高い医療を提供します。
    2. 患者さんの生命の尊厳とプライバシーを守り、患者さん中心の医療を行います。
    3. 保健・福祉・医療機関と連携し、地域社会への積極的な医療貢献を果たします。
    4. 教育・研鑽に努め、専門的な知識、熟練した技能をもって、信頼と責任ある医療を提供します。
    5. 公共性、経済性を考慮した健全経営に努めます。
- ・ 自施設の診療実績
  - (届出入院基本料) 一般病棟入院基本料(10対1)
  - (平均在院日数) 10.5日(平成28(2016)年度実績)
  - (病床稼働率) 76.0%(平成28(2016)年度実績)
- ・ 自施設の職員数
  - 基本情報(P2)
- ・ 自施設の特徴
  - 高度急性期、急性期が中心
- ・ 自施設の担う政策医療
  - 救急医療、災害時における医療、小児救急医療を含む小児医療
- ・ 他機関との連携
  - 小児医療について、市立総合療育センターと連携

### ④ 自施設の課題

- ・ 平成30(2018)年度中に新病院開院を控えている。
  - 【新病院概要】
  - 所在地 : 北九州市八幡東区尾倉2丁目6番
  - 許可病床数 : 350床
  - (病床の種別) 一般
  - (病床機能別) 高度急性期26床、急性期324床
  - 診療科目 : 内科、循環器内科、小児科、外科、呼吸器外科、消化器外科、肝臓外科、胆のう外科、膵臓外科、内視鏡外科、小児外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、皮膚科、泌尿器科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、救急科、麻酔科、精神科、歯科、リハビリテーション科、臨床検査科

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～④を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

- ・ 「救命救急センター」「小児救急センター」として、北九州市の救急医療、小児医療の拠点としての機能を果たし、市民の安全・安心を支える医療を提供する。
- ・ 小児医療については、新病院において診療機能のさらなる充実を図るほか、障害者や家族に対する医療面での支援の充実に向けて、障害児や在宅医療の支援に加え、市立総合療育センターとのさらなる連携強化等について検討する。
- ・ 平成30（2018）年度中の新病院開院にあたり、災害拠点基幹病院としての機能を強化し、広域での災害・外傷の診療に取り組む。

② 今後持つべき病床機能

- ・ 福岡県地域医療構想に示されたとおり、今後、少子高齢化や人口減少による医療需要の変化に対応していくためには、北九州区域全体における医療資源の効率的な活用が求められる。
- ・ 医療資源の効率的な活用に向けて、当院の強みを活かしつつ、市立病院間の連携を深めるとともに、民間病院を含む地域の医療機関との役割分担と連携を推進する。
- ・ また、地域医療構想調整会議の協議等を踏まえて、病床機能の見直しも視野に入れながら、民間病院を含む地域の医療機関とのさらなる機能分化についても検討する。
- ・ 具体的には、小児レスパイト患者、成人科病棟で受入れが困難な小児科オーバーエイジ（15歳以上）の患者など地域での受け皿が少ない患者等を積極的に受け入れることにより、地域の開業医の後方支援機能の向上をはじめ地域医療の充実に貢献することを目指し、回復期機能を有する病床の設置を検討する。

③ その他見直すべき点

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4 機能ごとの病床のあり方について

＜今後の方針＞

	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	5 3	→	2 6
急性期	3 8 6		2 8 4
回復期			4 0
慢性期			
(合計)	4 3 9		3 5 0

＜年次スケジュール＞

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2017年度	○新病院開院準備		<div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; display: inline-block; text-align: center;">           集中的な検討を促進 2年間程度で         </div>
2018年度	○新病院開院準備	○新病院開院	
2019～2020年度	○回復期機能を有する病床の設置を検討・準備 →地域医療構想調整会議での議論や地域医療圏の民間等の病院の動向等を踏まえ、検討	○回復期機能を有する病床の設置	<div style="display: inline-block; vertical-align: middle;"> <div style="background-color: orange; padding: 5px; text-align: center;">第7期 介護保険 事業計画</div> <div style="background-color: lightgreen; padding: 5px; text-align: center;">第7次医療計画</div> </div>
2021～2023年度			<div style="display: inline-block; vertical-align: middle;"> <div style="background-color: orange; padding: 5px; text-align: center;">第8期 介護保険 事業計画</div> </div>

## ② 診療科の見直しについて

検討の上、見直さない場合には、記載は不要とする。

＜今後の方針＞

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025年度)
維持		→	
新設		→	
廃止		→	
変更・統合		→	

## ③ その他の数値目標について

### 医療提供に関する項目

- ・ 病床稼働率：85.0%（平成32（2020）年度目標）
- ・ 紹介率：60.0%
- ・ 逆紹介率：80.0%

### 経営に関する項目\*

- ・ 医業収支比率：92.6%（平成32（2020）年度目標）
- ・ 経常収支比率：94.0%（平成32（2020）年度目標）

その他：

\* 地域医療介護総合確保基金を活用する可能性がある場合には、記載を必須とする。

## 【4. その他】

（自由記載）